

主題	地域の住民と関係機関で創る新たな地域ネットワークについて
副題	東日本大震災を経て、さらに主体的に動き始めた地域とともに
地域ネットワーク	地域ケア会議

研究期間	40ヵ月	事業所	ゆとりえ在宅介護支援センター
発表者：中村 博子、伊藤 正昭		アドバイザー：都賀田 一馬	
共同研究者：福島 信子、榎戸 寿美子、猪狩 眞紀子			

電話	0422-72-0313	メール	yutoriesien@parkcity.ne.jp
FAX	0422-72-0321	URL	http://fuku-musashino.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成8年7月に都市型小規模特養ホームとして地域密着の施設「ゆとりえ」が開設。現在、特養30床、ショートステイ2床、デイサービス35名（1日利用平均）、在宅支援センター（包括支援センターランチ）を併設。武蔵野市は現在、1包括6在支（6包括ランチ）体制で行っている。武蔵野市の総人口136,043人 65歳以上28,010人 高齢化率20.5% ゆとりえ地区の65歳以上6,074人 高齢化率22.2%（H24/4）
------------------	--

### 《1. 研究前の状況と課題》

#### ○研究前の状況

平成19年度実績（H18/4～H19/3）

- ・実態把握の訪問のべ件数 1,143件
- ・台帳作成件数 1,180件（H19/4）

平成23年度実績（H23/4～H24/3）

- ・実態把握の訪問のべ件数 2,380件
- ・台帳作成件数 1,487件（H24/8）

#### ○課題

①H19年～H23年の4年間で年間の訪問のべ件数は倍増しており、毎年200件前後の新規相談を受けている。②相談内容も複雑化しており、地域や関係機関と連携しながらの支援も増えている。③在支の職員体制もここ数年の人事異動・退職等により、新規採用が続いている。上記の①②③の状況も踏まえ、今後どのようにして、地域や地域住民を支え、地域の力を生かし活用していくべきか、有効な手法を模索することとなる。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

#### ○目標

地域の力を生かし、地域住民を支えることができる地域ネットワークの構築

#### ○期待する成果

地域にある住民組織のボランティア、地域福祉の会、町内会、民生委員、日赤奉仕団などと地域にある医療機関、施設、薬局、コンビニ、郵便局などの関係機関を繋げ、顔の見える関係を創ることで、コミュニケーションが図りやすくなり、地域力が向上すると思われる。

#### ○目的

地域の課題解決や住民支援について、地域住民や関係機関と協働で行うことで、より円滑に迅速に対応が行える。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 平成21年度 意見交換会  
平成22年2月17日(水) 16:00~18:00  
テーマ「災害時72時間以内に地域で生活している要援護者(高齢者・障害者など)を地域でどのように支援できるか」
- ② 平成22年度 意見交換会  
平成23年3月13日(日) 10:00~12:00  
テーマ「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために一緒に考えてみませんか」  
～お互いの地域活動を知ろう～
- ③ 平成23年度 意見交換会  
平成24年3月11日(日) 10:30~12:00  
テーマ「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために一緒に考えてみませんか」  
～地域の絆を深めよう～

#### ○参加者

地域福祉の会・民生委員・日赤奉仕団・老人クラブ・高齢者施設・障害者施設・市民社協・町内会・ボランティア組織・医療機関・包括など

### 《4. 取り組みの結果》

- ① 21年度 意見交換会の参加者意見抜粋  
向う三軒両隣がいざという時にどこに集まるかなど話しておくことが大切。どこにどんな困っている人がいるか情報が必要。知り合いの人を増やしておく。障害者対応、高齢者対応などを訓練しておく。障害者・自閉症の人など集団生活が難しい人の対応の検討が必要。
- ② 22年度 意見交換会の参加者意見抜粋  
震災時の地域での取り組み、今後の取り組みについて再検討できてよかった。顔と顔のわかり合える地域が本当に必要。近所のお付き合いを密にすることが救助に役立つ。地域の共通認識、情報交換が大切。ネットワークを作り、地域のつながりを強める。どこかに望むのではなく、互いに繋がって自助の方向の力をつけていく。携帯電話もいざという時に役に立たない。
- ③ 23年度意見交換会の参加者意見抜粋。

声掛けが増え、井戸端会議も大切にしている。人とのつながりが大切。向う三軒両隣が良好な関係になるためにも気楽に集える場が必要。地域の点と点を繋いでいく必要あり。元気高齢者が独居高齢者に声掛けするよう呼びかけている。居場所づくりの拠点として3カ所作った。防災ネットワークで青少協、福祉の会、コミセン、PTAが繋がりが深まった。地域住民が繋がるよういろいろ企画実施している。

### 《5. まとめ、考察》

21年度は災害時の対応をテーマに話し合わせ、22年度は東日本大震災の翌々日に開催され、震災当日の体験談等の情報交換となる。本当に必要な物は何か、大切なものは何か、それぞれの参加者がそれぞれに感じ気づきを得る会となる。23年度の開催日は震災1年後の3月11日(日)となり、震災当日を振り返るとともに、震災で得た教訓を生かすために活動されたこの1年の報告会となった。地域住民の意識がこの1年間でさらに変化し、行動化されている中でゆとりえが地域のニーズにどこまで対応できるか、何をすべきかと考える機会にもなっている。23年度の意見の中に関係づくりは一朝一夕では無理、必要な人に情報をキャッチしていただく工夫が常に必要などの意見もあり、ケア会議と合わせて、地域にある関係機関(医療機関・薬局・コンビニ・郵便局など)に市やゆとりえの取組みを周知するチラシ等を配布(24年度は約90カ所)。今後、地域ネットワーク構築の一助として、地域マップなどの活用も検討したい。

### 《6. 提案と発信》

昨今の不安定な社会情勢や甚大な被害を及ぼす自然災害により、住民の不安が増大している。地域住民が安心して暮らすためには何が必要か、住民の声に耳を傾け、解決のために地域住民と行政を含めた関係機関との連携強化を目指す。

#### 【メモ欄】